文芸祭　合同作品集

ごあいさつ

けんみん文化祭ひろしま実行委員会
会長　藤田雄山

本日、ここ広島市において「けんみん文化祭ひろしま'08文芸祭合同大会」を盛大に開催できますことは、大きな喜びでございます。

広島県の豊かな自然と伝統に育まれた文化の発掘、継承、育成を図るとともに、新たなひろしま文化の創造を目指して、「けんみん文化祭ひろしま」は、県民の皆様の文化活動の発表、鑑賞、交流の場として歴史を重ね、今日なお、広島の芸術の秋を彩っております。

本年の大会にも、お陰をもちまして、多くの県民の皆様から、日ごろの研鑽の結晶ともいうべき文芸作品を多数御応募いただき、深く感謝申し上げますとともに、栄えある各賞を受賞されました皆様には、改めて、心からお祝いを申し上げる次第です。

今後とも、本大会が皆様の創作の励みとなり、一人でも多くの方々に、様々な思いをことばに綴る楽しさを実感していただく契機となれば幸いであり、皆様には、さらに創作活動に励まれまして、本県における文芸の興隆にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、開催に当たり御尽力いただきました地元文化団体をはじめとする関係者の皆様に対し、心から感謝申し上げましてごあいさつといたします。

目次

短歌
小・中・高校生の部……8
一般の部……22
俳句
小・中・高校生の部……38
一般の部……52
現代詩
小・中・高校生の部……68
一般の部……106
川柳
小・中学生の部……142
高校生・一般の部……150
作品募集要項……160
応募状況……162
大会記録……163

短歌

選者

相原由美

三浦恭子

三原豪之

小・中・高校生の部

入賞作品

広島県知事賞

手をつなぎ一緒に歩いたおばあちゃんなんだかとても小さく感じた

県立忠海高等学校一年　大塚あかり

広島県議会議長賞

放課後にこっそり座る君の席君の世界を覗いてみたくて

如水館高等学校三年　内海　大貴

広島県教育委員会賞

円形に大きく見える校章が私の背筋真っすぐさせる

如水館高等学校二年　今川　杏里

けんみん文化祭ひろしま実行委員会会長賞

助走からリズムにのって砂場へと空中散歩わたしはウサギ

比治山女子中学校二年　髙宮　直子

広島市長賞

潮風に乗って飛んでる海鳥よ君たちもまだ旅の途中か

県立可部高等学校定時制一年　吉村　翔輝

広島市議会議長賞

六時すぎ弁当作りに苦戦してトマトはいつも朝の友だち

比治山女子中学校二年　秋本紗也香

広島市教育委員会賞

灯消し静かで暗い壕の中見上げる空は沖縄の青

庄原市立西城中学校三年　吉浪　明

財団法人ひろしま文化振興財団会長賞

父植えた大きく育ったさつまいも次はおれだというように出る

大竹市立栗谷中学校三年　島　佑治

選　相原　由美

特選

助走からリズムにのって砂場へと空中散歩わたしはウサギ

比治山女子中学校二年　髙宮　直子

【評】三段跳びをする作者だろうか。流れるような動作で跳躍した瞬間、ウサギになるという躍動感あふれる作品。

放課後にこっそり座る君の席君の世界を覗いてみたくて

如水館高等学校三年　内海　大貴

【評】「君」への気持ちが初々しく、相手を知りたいという思いがうまく表現されている。青春のただ中にいる作者。

灯消し静かで暗い壕の中見上げる空は沖縄の青

庄原市立西城中学校三年　吉浪　明

【評】沖縄への旅での体験が結晶している。壕の中から見上げた空の青さを結句に置き、効果をあげている。

潮風に乗って飛んでる海鳥よ君たちもまだ旅の途中か

県立可部高等学校定時制一年　吉村　翔輝

【評】海鳥に向かって呼びかける作者の思索的な目を良いと思う。君たちもか私も同じように旅をしている、と。

黒丸に白いハートのもようつき風船かずらの種かわいいね

廿日市市立大野東小学校六年　新　依子

【評】風船かずらは花にも目をひかれるが、秋になってその種子のかわいさに気づいた観察の細やかさが作品となった。

入選

鐘の音に黙祷ささげる祖母の腕の火傷と心の傷とを思う
呉市立仁方中学校二年　長島　朝子

沖縄のにふぇーでーびるありがとう気持ち伝わる楽しい方言
庄原市立西城中学校三年　藤澤　将也

弟よこんなに金魚どうするの捨てろとは言えず水槽も買う
県立可部高等学校定時制二年　今門　浩平

貝がらを耳にあてたら聞こえたよ貝が旅した海の思い出
庄原市立東小学校五年　東　彩香

振り返る夕日に染まる美術室あなたの絵の中海が広がる
県立祇園北高等学校一年　谷本　侑生

壕の中ポタリポタリと水の音苦しい過去を背負う暗闇
庄原市立西城中学校三年　徳永　麻衣

すきとおる足もとの砂かき分けてかすかに光る桃色サンゴ
庄原市立西城中学校三年　軒　紗彩

野うさぎが茶から黒へと色変わり野原のちょうちょ追いかけ回る
世羅町立せらにし小学校六年　中谷　圭伽

バスの窓曇りガラスにサミシイと誰も見てない伝言を書く
県立呉商業高等学校二年　河野千風優

雨の日の授業はなんだか灰緑私の心水たまりできる
比治山女子中学校二年　野々村七海

セミトカゲ鳥にモグラを持ち帰る家の周りは猫のコレクション
県立江田島高等学校三年　上本　美樹

私達はどこまで知っているだろう赤く染まった広島のそら
銀河学院高等学校三年　高田　倫江

木がお母さん花と実はきょうだいなんだまるで家族だね
三原市立幸崎小学校三年　津口　希里

写真ではとれないきらめき夏の海目に焼きつけて家族に話す
世羅町立せらにし小学校六年　大室　ひな

みどり色しましま模様の甘いやつ割られてザックリ赤く笑った
福山市立鳳中学校三年　篠田　健斗

下手だって泥だらけだって白球を追いかける君が何より好きだ
県立呉商業高等学校一年　吉田一都実

冬瓜の皮だけ残し姿消す猪の跡祖母が見つめる
庄原市立庄原中学校二年　谷崎　聡志

雨降りにみんな急いでかさをさす上から見るとかさのパレード
三原市立幸崎小学校六年　上河内実来

向日葵と太陽いつも向き合ってどんなお話しかわしているの
銀河学院高等学校二年　高田菜望子

休日は親と並んで犬の散歩田を風景に何を話そう
銀河学院高等学校三年　青木　美佐

選　三浦　恭子

特選

円形に大きく見える校章が私の背筋真っすぐさせる

如水館高等学校二年　今川　杏里

【評】校舎正面の校章か胸の記章か不明だが、「学校」に対する真面目な姿勢が心地よく伝わる。どの言葉にも光がある。

手をつなぎ一緒に歩いたおばあちゃんなんだかとても小さく感じた

県立忠海高等学校一年　大塚あかり

【評】作者の体も心も成長したのでおばあちゃんを小さく感じたのだろう。素直な表現が歌を優しくし読者の心に沁みる。

父植えた大きく育ったさつまいも次はおれだというように出る

大竹市立栗谷中学校三年　島　佑治

【評】「次はおれだ」と大きなさつまいもが胸を張ってポコポコ出てくる表現は発見。ユーモラスで、歌にテンポがある。

バスの窓曇りガラスにサミシイと誰も見てない伝言を書く

県立呉商業高等学校二年　河野千風優

【評】思春期の微妙なさみしさを、少し大人っぽく上手に歌っている。「誰も見てない伝言」が巧み。この詩心を大切に。

潮風に乗って飛んでる海鳥よ君たちもまだ旅の途中か

県立可部高等学校定時制一年　吉村　翔輝

【評】生活から一歩出た所で素材を捉えた感覚を買う。あなたも成長という旅の途中。一首全体にロマンがあり構図が大きい。

入選

勝ってやる強気でにぎったラケットに立ちはだかった同じ目の友
呉市立仁方中学校二年　坂元　利行

母の手で愛情こもったお弁当大事な大事な宝物だよ
福山市立東中学校二年　横山　優美

みどり色しましま模様の甘いやつ割られてザックリ赤く笑った
福山市立鳳中学校三年　篠田　健斗

手をつないで歩く家族に出合ったよその人達の笑顔いいなあ
廿日市市立大野東小学校六年　石川奈都美

早咲きの桜の下で君に会い私の中に桜が開く
呉市立川尻中学校三年　上出　詩織

放課後にこっそり座る君の席君の世界を覗いてみたくて
如水館高等学校三年　内海　大貴

気持ち良い一年生のあいさつになぜだか少し笑顔になった
呉市立呉中央中学校二年　鎌田　有紀

私達はどこまで知っているだろう赤く染まった広島のそら
銀河学院高等学校三年　高田　倫江

大好きだ城北ずっとこれからも大田先生ありがとう
銀河学院高等学校一年　藤原　楓

甲子園優勝めざしがんばった夏の仲間にありがとう
銀河学院高等学校一年　小林　晋也

悲しみであふれる過去が沖縄にあって築ける平和な世界
庄原市立西城中学校三年　寺川　清華

壕の中ポタリポタリと水の音苦しい過去を背負う暗闇
庄原市立西城中学校三年　徳永　麻衣

私がね泣いてる時に差しのべる友達の手が温かいんだ
県立可部高等学校定時制一年　中川　澪奈

決めたこと心に秘めたこの思い変えることなく突き進むから
県立可部高等学校定時制二年　山口　麻美

悔しいと仲間が言えば肩たたき何も言わずに一緒に走る
如水館高等学校三年　藤原ちなみ

ありがとうたった一語に意地を張るあの時のくい心にしみる
銀河学院高等学校二年　坂本　悠記

最後までボールを追ってるその姿少年達の夏は輝く
銀河学院高等学校一年　相田　倖希

定時制いろんなことを学べるよ友達のこと分かり合えるし
県立可部高等学校定時制四年　中瀬　里奈

六時すぎ弁当作りに苦戦してトマトはいつも朝の友だち
比治山女子中学校二年　秋本紗也香

黒丸に白いハートのもようつき風船かずらの種かわいいね
廿日市市立大野東小学校六年　新　依子

選　三原　豪之

特選

手をつなぎ一緒に歩いたおばあちゃんなんだかとても小さく感じた

県立忠海高等学校一年　大塚あかり

【評】平易な表現の中に「おばあちゃん」への深い愛情が感じられる。上句で事実を下句で思いを素直に詠んでいて好感の持てる歌。

放課後にこっそり座る君の席君の世界を覗いてみたくて

如水館高等学校三年　内海　大貴

【評】君への思いが繊細なタッチで詠まれた作品。四句・五句の思いが初句に還ってくる形の作りになっているのもうまい。

六時すぎ弁当作りに苦戦してトマトはいつも朝の友だち

比治山女子中学校二年　秋本紗也香

【評】早朝の弁当作りの苦労が爽やかに詠まれている。「トマトはいつも朝の友だち」が巧みで、この歌を温かいものにした。

悔しいと仲間が言えば肩たたき何も言わずに一緒に走る

如水館高等学校三年　藤原ちなみ

【評】仲間への労りと思いやりとが具体的な動作（三・五句）を通して表現されていてそれが思いの深さにつながっている。

壕の中ポタリポタリと水の音苦しい過去を背負う暗闇

庄原市立西城中学校三年　徳永　麻衣

【評】沖縄を詠んだ歌。戦争の傷が暗闇に、涙が水の音に象徴されていて抑えた表現の中に深い悲しみと憤りとが感じられる。

入選

通学路胸いっぱいに空気すう少し痛くて冬を感じる
呉市立仁方中学校三年　熊本　葵

落ちそうで落ちない不思議なツバメの巣これから始まる子育て守る
世羅町立せらにし小学校六年　木田紗由季

太陽に負けないように咲いているひまわり見れば勝てる気がする
如水館高等学校三年　田口　未来

コンクール終わった瞬間楽器見てやさしくなでる中三の夏
呉市立仁方中学校三年　江口　実沙

君からのメールの返事来ないけどもう一度だけ送信しよう
県立呉商業高等学校一年　兼平　愛子

木にとまるセミにも個性あるのかな声と鳴き方少しずつ違う
世羅町立せらにし小学校六年　松葉　優希

朝の風つめたいけれど一輪車に風があたって楽しくこげる
廿日市市立大野東小学校六年　田辺　星七

竿の先じっと見つめてカレイ待つ喜ぶ母を思い描いて
呉市立横路中学校三年　浦邊　裕樹

けんび鏡メダカのたまご見てみるとやっと出てきた小さな目玉
北広島町立川迫小学校六年　小畑　穂波

ありがとう普段は照れて言えないが母の日になら照れずに言えた
如水館高等学校二年　山戸　一成

向日葵よ貴方のようになりたいないつも前だけ向いてるように
県立忠海高等学校二年　村上　結

野球部のレギュラーめざし日々努力きょうも夜にすぶりにはげむ
福山市立東中学校二年　佐藤　正樹

秋の風落ち葉まき上げ去っていく緑の香りつんと広げて
神石高原町立三幸小学校六年　川上　克己

青空にミンミン響くセミの声長生きしろと願う夏の日
呉市立川尻中学校三年　吉行宏次朗

試験中いつもは聞かぬ鉛筆のこつこつという音にあせる我
福山市立東中学校二年　安部　希望

最近はすっかり数が減ってきた少子化なのかああ鯉のぼり
県立可部高等学校定時制二年　茅原　聡之

どれだけの汗を流せば強くなる手の平握り空を見上げる
庄原市立庄原中学校三年　梶原　愛理

試験の日答案用紙くばられて気合を込めて握る鉛筆
福山市立東中学校二年　元谷　梓

ありがとうたった一語に意地を張るあの時のくい心にしみる
銀河学院高等学校二年　坂本　悠記

清流に蛍飛び交う夏の夜ゆかた姿でしばし眺める
県立忠海高等学校一年　恵良　未来

一般の部

入賞作品

広島県知事賞

折鶴の嘴きっちり折り終えし「水ヲイッパイ飲ンデクダサイ」

山県郡北広島町　精舎　悦子

広島県議会議長賞

コスモスの花も書き添え手渡しぬバス停からのわが家への地図

山県郡北広島町　沖野　幸子

広島県教育委員会賞

やはらかく白くなりしよ百年を使ひ続けし母の手のひら

広島市　髙橋　洋子

けんみん文化祭ひろしま実行委員会会長賞

赤紫蘇を揉む手の間より灰汁いでて老い曲る指わずか艶めく

広島市　野島　桂子

広島市長賞

助詞ひとつ違えたような関節が明日は雨と教えてくれる

安芸郡海田町　上條　節子

広島市議会議長賞

毒ガスを作れる島に学徒とし働きし姉いま癌を病む

三原市　細田　章子

広島市教育委員会賞

さすほどの雨にあらぬと折りたたむ傘につきおり花の一片

三次市　松田　一枝

財団法人ひろしま文化振興財団会長賞

八月のアオギリ二世何を告ぐか葉裏に言葉のやうな傷あり

廿日市市　中村　公子

選　相原　由美

特選

コスモスの花も書き添え手渡しぬバス停からのわが家への地図

山県郡北広島町　沖野　幸子

【評】何の技巧も感じさせない自然体の一首。コスモスの花が何より効果をあげ、うまい構成となっている。

毒ガスを作れる島に学徒とし働きし姉いま癌を病む

三原市　細田　章子

【評】大久野島のことだろうか。ただ事実をのべているだけだが、歴史の証言が悲しみと怒りを湛えている。

さすほどの雨にあらぬと折りたたむ傘につきおり花の一片

三次市　松田　一枝

【評】ゆったりとした詠いぶりが読者をほっとさせる。一片の花びらのいろを想像させる印象的な一首。

なに願ひしダルマか箱より取り出せば両眼白きが睨みはじむる

広島市　今村　榮子

【評】願いをこめて片目を黒く塗るはずのダルマが用をなさないまま見つかる。「睨みはじむる」が面白い。

逝きし人の残せし半紙、墨、筆が積まれてありぬケアハウスの隅

廿日市市　寺田　孝子

【評】情景を写しとっただけであるが、逝った人の生前の暮し、趣味そして境遇が分かる。「残しし」としたい。

入選

姉よりの絵手紙のメバル目の澄みて「今旬ですよ」と添え書のあり
三原市　藤岡　美幸

木酢垂らす湯にとっぷりと浸るときアルカリ性の怒り中和す
広島市　溝口須賀子

星のきれいな丘に三十坪の家を建て元の二人となりて年古る
広島市　佐東　晴登

海の面に朝日が落す一本の緋の帯ゆらす始発のフェリー
三原市　久保田浄子

昨日来し中国からの研修生我が知らぬ菜塀に干しいる
府中市　井上　蔦子

昨夜（よべ）昇りし月のようなる風船がとろんぽろんと草叢を這う
廿日市市　中嶋　絹江

如何ならん意に父祖拓きしや大田の荘一等田地の宅地化止まず
世羅郡世羅町　黒木　幸子

「生きてるの」金魚のことでも聞くように互に確む友への電話
広島市　高下　和子

「エノラ・ゲイ」の機長の訃報を聴く朝八月六日が追ひかけてくる
安芸郡府中町　西村　昌子

接待をするも受くるも老ばかり地蔵祭に島の子を見ず
廿日市市　齋藤　金二

じいちゃんに逢えるのかと聞く孫がいて夫の法要の回り灯籠
呉市　古谷　明子

助詞ひとつ違えたような関節が明日は雨と教えてくれる
安芸郡海田町　上條　節子

敗れたれば死なねばならぬと十才のわれおののきし八月十五日
東広島市　玉津　富子

入野とふ駅を離るるいっときを車窓に揺らぐ白萩の花
三原市　村上佐登子

岩国の子持ちの鮎の錦煮が口にほぐれて酒を呑み足す
広島市　村上　耿志

賑わいの街のラッパは慈善鍋人の流れはこれを迂回す
呉市　平見　光子

このごろは夢にも来ない父母は老い人となりしわたしを知らない
呉市　岩崎美津子

空き缶一つ車道の行手を転がりてつぶるることなく路肩に隠る
三原市　中本　節子

奥津峡を転がり丸くなりし岩神を宿して静と座しおり
広島市　山根　富江

豌豆の先に残りし枯花は子離れ下手なわが身に似たる
庄原市　橘　京子

選　三浦　恭子

特選

やはらかく白くなりしよ百年を使ひ続けし母の手のひら

広島市　髙橋　洋子

【評】一首の中心は「百年を使ひ続けし」である。二句切れの「よ」の詠嘆が下句を持上げ、作者の母への慈しみが伝わる。

折鶴の嘴きっちり折り終えし「水ヲイッパイ飲ンデクダサイ」

山県郡北広島町　精舎　悦子

【評】四句への巧みな転換と、下句の口語による能動的な表現が従来の原爆詠にない新鮮さを持つ。知的な一首である。

八月のアオギリ二世何を告ぐか葉裏に言葉のやうな傷あり

廿日市市　中村　公子

【評】被爆の痛みを詩的に歌いあげた一首。文法的に少し疑問の残る所もあるが、下句の独自の感性がそれを越えた。

赤紫蘇を揉む手の間より灰汁いでて老い曲る指わずか艶めく

広島市　野島　桂子

【評】持味の柔らかい視線の丁寧な歌。結句の、ほのかに赤みを帯びた手の、繊細な「艶」がいい。老いしといへども。

日に焼けし歩き遍路の若者はナイキのリュックを軽く背負へり

広島市　実光　優華

【評】「遍路」と「ナイキのリュック」の対照がよく生きて、現代の若者の姿を明るく立たせている。歌に生気がある。

入選

夏日暮トマトに少し水やれば地球が熱き息を吐き出す　尾道市　橋和　淑子

美しきかな文字の手紙届きたり年令重ねしことにはふれず　世羅郡世羅町　上田　初枝

職業の欄に無職と書き慣れて冬の夕日に着膨れ晒す　庄原市　林　武志

読めばなほ息詰まりくる原爆の記事の切抜き溜まる抽出し　広島市　出原　知恵

宮殿の門番のごと姿勢よきプラタナス舗道にみどりひろぐる　広島市　光原　桂子

助詞ひとつ違えたような関節が明日は雨と教えてくれる　安芸郡海田町　上條　節子

姉よりの絵手紙のメバル目の澄みて「今旬ですよ」と添え書のあり　三原市　藤岡　美幸

源氏蛍のひとつが部屋に迷い来て足萎えの母をしばし慰む　福山市　多賀　陽美

灯籠の流るる岸辺をゆきをれば川に語りて数珠鳴らす人　安芸郡府中町　三刀屋安子

農担うまでにはゆかぬ息子なれどトラクター習う眼の輝けり　三原市　小白　照子

くれないに燃えて逆巻く霧の海底に眠れりわが故郷は
広島市　川口　幸子

心臓のバイパス血管よ有難う春草萠ゆる畑を耕す
三原市　豊原　国夫

「かくれますお腹まはりが」水玉のロングブラウスつい購ひぬ
呉市　島崎芙美子

わが半生ささえとなりし吟のみちたのしみ味わいまた苦吟す
広島市　外和　瑛山

8（ハチ）・6（ロク）を語れば教室（へや）は静まりて学生の瞳（め）に光り増したり
尾道市　渡邊　哲

海の面に朝日が落す一本の緋の帯ゆらす始発のフェリー
三原市　久保田浄子

数万の命をひびかせ鳴き交わし雁は渡りの群れなして発つ
東広島市　下田　和子

如何ならん意に父祖拓きしや大田の荘一等田地の宅地化止まず
世羅郡世羅町　黒木　幸子

呑みこみの差は兎も角もシニアらのパソコン教室今日も賑はふ
広島市　赤尾　節子

コスモスの花も書き添え手渡しぬバス停からのわが家への地図
山県郡北広島町　沖野　幸子

選　三原　豪之

特選

折鶴の嘴きっちり折り終えし「水ヲイッパイ飲ンデクダサイ」

山県郡北広島町　精舎　悦子

【評】上句から下句への展開が巧み。嘴から水のイメージを引き出し爆死者たちへの熱い思いと祈りにつなげている。

助詞ひとつ違えたような関節が明日は雨と教えてくれる

安芸郡海田町　上條　節子

【評】軽妙でウィットに富む作品。関節のちょっとした違和感をうまく表現している。「助詞ひとつ」に味わいがある。

赤紫蘇を揉む手の間より灰汁いでて老い曲る指わずか艶めく

広島市　野島　桂子

【評】赤紫蘇の灰汁に染まる「老い曲る指」を「艶めく」と詠む。この豊かな感受性こそが新鮮な歌を作り続ける力。

コスモスの花も書き添え手渡しぬバス停からのわが家への地図

山県郡北広島町　沖野　幸子

【評】コスモスの花を書き添えたところに作者のゆたかな心がうかがえ、歌に膨らみが出た。相手への心遣いが出来る作者。

農誌に綴る米の収量粒もよし今年の吾の稲作終る

府中市　馬場　利子

【評】農事に真摯に取り組んでこられた姿が迫ってくる。二句、三句の具体がこの歌を実感のこもったものにした。

入選

「エノラ・ゲイ」の機長の訃報を聴く朝八月六日が追ひかけてくる　安芸郡府中町　西村　昌子

たたみたる祈りの量（かさ）の折鶴よ禎子の像にふかく額伏す　安芸郡府中町　片岡　春子

肥後の守で鉛筆削るわが手元四つの瞳が息つめ見つむ　広島市　宮野登世子

華やかに峡田彩りトラクター農の衰微も見せず耕やす　三次市　橿原　博暁

逝きし人の残せし半紙、墨、筆が積まれてありぬケアハウスの隅　廿日市市　寺田　孝子

田仕舞の藁焼く煙にむせびつゝ案山子も収めの御酒（おみき）もらひをり　庄原市　家島　晶子

むらさきの鉄線大きくひらく朝男孫生れしと娘の電話　広島市　坂田多由子

幾百のあたまでっかち葱坊主受験戦争ただ中の子ら　大竹市　津村スマコ

姉よりの絵手紙のメバル目の澄みて「今旬ですよ」と添え書のあり　三原市　藤岡　美幸

戦いに二十五歳で逝きしより永遠に埋まるなき父のアルバム　府中市　片山　瓔子

「生きてるの」金魚のことでも聞くように互に確む友への電話　広島市　高下　和子

木洩れ日の包む放課後クワの実に口染めながら背伸びする子ら　庄原市　古家八千代

田村草の花に七星天道虫（ななほしてんとう）の止まりてゆっくり羽合わせたり　広島市　鈩谷　君子

暗証番号押さねば開かぬ棟内にひまわりのような笑顔して叔母　呉市　遠藤　晴美

知らぬ間に冬瓜ひとつ庭木より下がりいるなり目方三キロ　大竹市　赤瀬　勝昭

内深く彩り香りひそませて老花一つ燃えつきるとき　福山市　井ノ迫あい子

われにはわれの夢ひそかにて挿し木せし菊うす紅に秋を咲き初む　廿日市市　伊藤　方恵

夕暮れを尾っぽ振り振り泳ぎゐる蝌蚪よあしたも白鷺くるぞ　安芸郡海田町　田中　宏

雨の日に揺るる巣の中山鳩の赤い目くるりたまご温む　三原市　桒田　淳子

海の面に朝日が落す一本の緋の帯ゆらす始発のフェリー　三原市　久保田浄子

俳句

選者

木村里風子

竹下陶子

和田照海

小・中・高校生の部

入賞作品

広島県知事賞

小学校最後の騎馬戦天高し

世羅町立せらにし小学校六年　久保　圭佑

広島県議会議長賞

図書室の壁にもたれて春惜しむ

県立尾道北高等学校一年　平田ひかる

広島県教育委員会賞

赤とんぼ稲をかれよと飛び回る

世羅町立大見小学校四年　坂川　久紀

けんみん文化祭ひろしま実行委員会会長賞

明日の出漁天気予報は春一番

福山市立走島中学校三年　高橋　大将

広島市長賞

かれ葉ふみふと耳すます秋の音

なぎさ公園小学校六年　内田　雄基

広島市議会議長賞

暑い日は地球が熱を出している

府中町立府中中央小学校五年　内田ひなの

広島市教育委員会賞

ごんぎつねのしっぽありそなすすきのほ

世羅町立せらにし小学校六年　中谷　圭伽

財団法人ひろしま文化振興財団会長賞

おじいちゃん花火のように消えてった

福山暁の星小学校四年　濱　　僚太

選　木村　里風子

特選

小学校最後の騎馬戦天高し

世羅町立せらにし小学校六年　久保　圭佑

【評】思いきり騎馬戦をして汗を流している様子が見えるようです。小学校最後のというところがよいのです。

夕焼けが山の向こうでまたあした

尾道市立吉和小学校六年　鍵谷　瑛美

【評】夕焼けの美しさに声をあげたのでしょうね。またあした、この声が明るいのです。

かれ葉ふみふと耳すます秋の音

なぎさ公園小学校六年　内田　雄基

【評】かれ葉を踏む音に秋を感じた細かい詩心の持主。枯葉を踏むと紙のような音がする、それを聞き逃さなかった。

夜の海舟のまわりに夜光虫

福山市立走島中学校三年　高橋　佑伍

【評】夜光虫の妖しい光りが舟のまわりに消えたり光ったりしている。海浜の風景には詩があります。

どんぐりをひろって作った首かざり

呉市立長迫小学校二年　古本　あみ

【評】遠足に行ったのでしょうか、皆でどんぐりを拾ってどうしよう。こまの人、私は首かざりに。首かざりの音がする。

入選

バスの中行きとちがっていびき聞く　広島市立戸坂小学校六年　下村　卓己

太陽に露が光って始まる日　世羅町立せらにし小学校六年　藤川　葉月

せみの声ぼくらをよぶよ森の中　福山市立宜山小学校六年　石井　史伽

運動会おどりでぴんと手をのばす　尾道市立吉和小学校二年　山本恵理香

大こんは土のにおいがするんだな　東広島市立平岩小学校二年　小島　悠翼

夜の森虫の鳴き声木にしみる　なぎさ公園小学校四年　林　英臣

山に野にもう見えかくれ秋の色　神石高原町立二幸小学校三年　川上　歩

海へ行く麦わらぼうしもいっしょにね　呉市立野路中切小学校五年　新谷　桃果

トンボたちおしゃれなはねがじまんだね　三次市立宇賀小学校四年　石田穂乃華

あさがおにみずをあげたらはないっぱい　三次市立川地小学校一年　上木　尊斗

おじいさんかぶをぬこうとしているよ　福山市立道上小学校一年　塩沢　晴吾

どんぐりは転がりながら旅をする　福山市立道上小学校三年　藤井　光輔

夕やけだいつもないているカラスだね　福山市立道上小学校五年　和田有里菜

川の風秋が来たよと知らせるよ　福山市立道上小学校六年　瀧本　友香

冬越しの白菜の苗祖母と植え　庄原市立庄原中学校二年　谷﨑　聡志

湖にうつる自分と青葉の木　福山市立東中学校二年　三島　渉

下駄鳴らす浴衣少女の残り香よ　県立広島観音高等学校三年　吉村　芙実

食べかけのみかん転がるこたつかな　県立広島観音高等学校三年　小杉　汐里

図書室の壁にもたれて春惜しむ　県立尾道北高等学校一年　平田ひかる

せみの声思い出すのは祖母の家　銀河学院高等学校二年　船橋　依里

選　竹下　陶子

特選

赤とんぼ稲をかれよと飛び回る

世羅町立大見小学校四年　坂川　久紀

【評】熟れきった稲田の上を飛ぶ多くの赤とんぼが、早く刈れとせかしている様に感じた。豊作をよろこぶ心。

暑い日は地球が熱を出している

府中町立府中中央小学校五年　内田ひなの

【評】毎日三十五度を超す猛暑が続いた。まるで地球全体が熱を出していると感じた。素直な発想ですばらしい。

夏の海なぞのユーフォー大発生

坂町立横浜小学校六年　井上　水晶

【評】越前くらげであろう。巨大で大発生により漁業に悪影響を与えた。これをなぞのユーホーと見た所が大成功。

おじいちゃん花火のように消えてった

福山暁の星小学校四年　濱　僚太

【評】かわいがってくれたおじいちゃんが亡くなった。悲しく、なつかしい心を、花火のように消えたと俳句にした。

とうもろこしひげがいっぱいおじいさん

庄原市立峰田小学校一年　福岡　海斗

【評】とうもろこしのひげは少しちぢれて、おじいさんのようだと思った。やさしいおじいさんのひげかもね。

入選

逆上がりしているようなキュウリなる　世羅町立せらにし小学校六年　福永　志帆

ゆうゆうとトンボの先導運動会　世羅町立せらにし小学校六年　宮田　果林

チューリップ一年生をむかえてる　東広島市立平岩小学校四年　髙山　渚

すずめの子チュンチュンないてどうしたの　東広島市立平岩小学校二年　中原　美波

げんかんはいつもつばめがおむかえだ　東広島市立三永小学校三年　藤田　美空

あめんぼうおたまじゃくしとあそんでた　府中町立府中中央小学校二年　にしむらまい

水たまりかがみになってにじみえた　坂町立横浜小学校二年　山脇　亮大

赤とんぼ富士の初雪見つめてる　坂町立横浜小学校四年　伊藤　祐希

おさがりの赤いゆかたで夏まつり　福山暁の星小学校四年　石倉　亜季

りすさんはどんぐりかりかりおいしそう　福山市立道上小学校一年　和田茉奈実

ゆうやけはきれいにはれるしるしだよ　福山市立道上小学校一年　徳山　和生

クワガタがつのをあわせてなげとばす　庄原市立峰田小学校二年　川崎　凌平

雪だるまおもいでいっしょにきえていく　庄原市立峰田小学校四年　中村　博紀

ほめられた言葉は心のこたつかな　東広島市立八本松中学校三年　中川　純奈

五月雨をキャンプファイヤー吹き飛ばす　広島市立瀬野川東中学校二年　河野正太郎

太陽を舌にのせるはさくらんぼ　英数学館中学校一年　楠　直也

花火見て休みの最後しめくくる　福山市立誠之中学校一年　早崎　敦生

しかられた事もなつかし盆参り　福山市立誠之中学校一年　菅田有花理

図書室の壁にもたれて春惜しむ　県立尾道北高等学校一年　平田ひかる

手花火のほのかに浮かぶ母の顔　銀河学院高等学校三年　髙橋　美佳

選　和田　照海

特選

明日の出漁天気予報は春一番

福山市立走島中学校三年　高橋　大将

【評】天気予報では明日は春一番が吹くと報じている。漁に出る父を案じる作者の思いが伝わる句だ。

ごんぎつねのしっぽありそなすすきのほ

世羅町立せらにし小学校六年　中谷　圭伽

【評】新美南吉の「ごんぎつね」は、国語の教科書で人気の物語。すすきの原っぱで、ごんに会えるような気がする。

記録より記憶に残る体育祭

庄原市立庄原中学校三年　沼田　直樹

【評】体育祭は勝つことより、仲間やクラスが一丸になって、思い出を作る。素直な中学生らしい句である。

生意気を言いたい盛り青葉風

県立尾道北高等学校二年　渡邉　大貴

【評】きざな態度や言動で反抗したが、それは思春期のせいかも。作者は素直に成長している高校生。季語が効果的。

おにやんまみんなのはいく見に来たよ

東広島市立平岩小学校二年　杉西　陽菜

【評】大きな目のおにやんまがやってきた。いち早く見つけた作者。その明るい声が聞こえてきそうだ。

入選

ゆうゆうとトンボの先導運動会　世羅町立せらにし小学校六年　宮田　果林

夏風が迷う自分をポンとおす　大竹市立栗谷中学校三年　田中　理恵

ほんのりと潮のかおりのさより舟　福山市立走島中学校一年　高橋　佑実

黒い肌勲章にした夏休み　呉市立仁方中学校三年　石井　裕子

桜咲き初心に戻りやる気湧く　県立可部高等学校定時制四年　宮田麻紗実

夏休みすごくたのしい豚のせわ　三次市立君田中学校三年　加島　将大

漁の母完全防備に日焼け止め　福山市立走島中学校二年　木村　啓太

組体そうたおれずがまん五月晴れ　東広島市立平岩小学校五年　杉浦帆乃香

図書室の壁にもたれて春惜しむ　県立尾道北高等学校一年　平田ひかる

しぶいよねうじきんときがすきなんて　呉市立横路中学校二年　門田　真穂